

## 平成二十二年度を 振り返って・・・

平成二十二年度もあと数日というところで、本号を編集していますが、この一年を振り返ってみたいと思います。

四月十日に、NPO山梨家並保存会が進めていた「甲州民家情報館」事業が完成し、竣工式と懇親会が開催されました。また、竣工式後には工学院大学・後藤治教授による第二回勉強会を行ったところ、多くの方々に「ご参加いただきました。十月十六日には、中村一仁さんから代表者の方に、

年が明けて一月二十三日、政策秘書課主催の「ふるさと景観フットパスプロジェクト」が上条地区を舞台に行われ、地元の方にも参加していただきました。市内からの参加者の感想は、風景がよく残されていることへの驚きが大変多かったです。

三月十六日には、後藤教授をお招きして第三回勉強会を企画し、皆様にもお知らせしたところですが、予期せぬ震災の影響で中止せざるを得ませんでした。さらに、本年度は先進地視察研修も開催できず、大変申し訳なく思っています。

この場をお借りしてお詫びしますとともに、本年度は気持ちを入れ替えて、今後の地区の保存のためになる研修会や情報提供をしたいと考えています。

「上条報告」では、これまで各地の重要伝統的建造物群保存地区の紹介をしてきました。二十二年度で八地区を掲載しましたが、掲載できなかった三地区を紹介します。

### 高山市三町（商家町）

所在地	岐阜県高山市神明町四丁目、上一之町、上二之町、上三之町、片原町の各一部		
種別	商家町		
条例制定年月日	昭和五二年三月三〇日		
選定年月日	昭和五四年二月三日		
地区面積	約四・四ヘクタール		
保存物件数	建築物	一七二件	
	工作物	二件	

高山の町は天正十四年（一五八六）飛騨一國、三万八〇〇〇石の領主として入国した金森氏によってその基礎が築かれました。初代金森長近は天正十六年に城の築城に着手し、慶長年間にはまちづくりをほぼ完成させました。城作りと同時に城下町も整備され、商業経済を重視した城下町となりました。城を取り囲んで高台を武家屋敷、一段低いところを町人の町として、この町人町の一部が現在の重要伝統的建造物群保存地区になっています。

元禄五年（一六九二）金森家は出羽の国へ転封となりましたが、その後も高山の町はひだの商業経済の中心地として栄え、旦那衆と呼ばれる裕福町人を中心に特色ある文化が築かれていきました。

明治以後も数度の火災に見舞われましたが、ほぼそ

のまままで再建され、往時の姿をよくとどめています。

高山市が町並み景観保存の取り組みを始めた理由は様々ですが、映画のロケや雑誌での紹介を通じて町並みに対する再認識が住民や自治体にあったこと、市内を流れる宮川など河川の環境悪化に対しての美化運動が市民ぐるみで発展し、運動が町並み保存へも及んでいったこと、町並みと密接なつながりをもつ高山祭の屋台が重要な民俗文化財に指定されたこと、などが挙げられます。



三町を散策する観光客。通りの両側は民芸品や造り酒屋などお土産屋でいっぱいです。

### 高山市下二之町大新町（商家町）

所在地	岐阜県高山市下二之町、大新町一丁目、大新町二丁目、大新町三丁目、その他隣接町の一部		
種別	商家町		
条例制定年月日	平成一六年二月一六日		
選定年月日	平成一六年六月		
地区面積	約六・六ヘクタール		
保存物件数	建築物	二二〇件	
	工作物	一二件	
	環境物件	八件	

高山市には三町に近接して、北側に下二之町大新町伝統的建造物群保存地区があります。この保存地区は東西約一八〇m、南北約七八〇mと広く、重要文化財に指定されている日下部家住宅や吉島家住宅を含んでいます。また、江戸時代をはじめ明治から昭和初期までの各時代の変化に富んだ町家が残っています。

町家は切妻造平入二階建てで、大屋根の軒を深く出し、一階正面は大戸や出格子をつけ、その上部に出の小さい小庇を付けます。ドジ(通り土間)とダイドコロなどの上部を吹抜けにして、高窓から光を取り入れ、柱や梁などの豪壮かつ整然とした構造美をみせるなど、高度な大工技術が発揮されています。

時代が降るにつれて軒高が高くなり、昭和期にはガラス窓をもつ本二階が建てられるなど、多様な形式の町家が残されています。

選定年がまだ最近であるためか、修理・修景されている建物は少なく、通りも三町に比べて広いことから、三町とは異なった印象があります。ですが南端に位置する重要文化財の日下部家・吉島家の周辺は早くから景観形成がされているようで、今後整備の動きはだんだん北上していくのでしょうか。



日下部家・吉島家がある通り。



まだ整備されていない通り。

### 東近江市五個荘金堂(農村集落)

所在地	滋賀県東近江市五個荘町大字金堂
種別	農村集落
条例制定年月日	平成九年六月二四日
選定年月日	平成一〇年二月二五日
地区面積	約三二・二ヘクタール
保存物件数	建築物 一九四件 工作物 一〇四件 環境物件 九件

五個荘金堂は琵琶湖の東岸・湖東平野のほぼ中心に位置し、古代条里制地割に基づく田園地帯です。地名の起源は、聖徳太子が当地で寺院を建立した伝承にあります。町並みの基礎は、江戸時代前期に作られ、元禄六年(一六九三)に集落中央に大和郡山藩の陣屋が置かれ、その周辺に弘誓寺・勝徳寺・浄栄寺などが建ち、周囲に農家住宅が集まり、湖東平野の典型的な農村集落が形成されました。

この地区からは幕末から明治・大正・昭和戦前にかけて近江商人が多数輩出されており、集落の中心部では広大な敷地の豪商本宅群が軒を連ねています。集落内には水路が縦横に巡り、周囲の水田景観が伝統的な和風の建築群と調和した、優れた歴史景観を保存しています。

地区内には比較的多くの茅葺民家が点在しています。これらは農家住宅で、寄棟造平屋建の主屋と納屋をもつ伝統的な形式です。一方商人本宅は、広大な敷地を板塀で囲み、内部に切妻造や入母屋造の主屋を建

て、周囲に数寄屋造風の離れや土蔵、納屋を配し、池や築山がある大きい日本庭園が備わっていることが特徴です。

近江商人の屋敷は、三軒ほどが当時の五個荘町により保存修理され、資料館として活用されています。立派な造りの主屋と、板塀の内側に建ち並ぶ土蔵群は圧巻で、全国を股にかけた近江商人の勢力をうかがい知ることができます。水路はきれいに整備され、錦鯉が優雅に泳いでいます。水郷ではありませんが、琵琶湖に近いため水が豊富である証で、農村らしい風景づくりに一役買っています。



集落内の茅葺民家。これらは農家のつくりです。



上：近江商人宅の土蔵。  
左：水路を泳ぐ錦鯉。